

製品名: NFAT2 (リン酸化Ser172) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05820

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	104kDa

抗原情報

遺伝子名	NFATC1
別名	Nuclear factor of activated T-cells, cytoplasmic 1 (NF-ATc1) (NFATc1) (NFAT transcription complex cytosolic component) (NF-ATc) (NFATc)
遺伝子 ID	4772.0
SwissProt ID	O95644
免疫原	ヒト NFAT2 由来の合成ペプチド（リン酸化Ser172）

背景

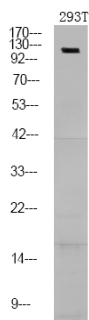
代替製品: アイソフォーム C- α とアイソフォーム C- β は遺伝子転写の最も強い活性化因子であり、アイソフォーム A- α とアイソフォー

ム A-β がそれに続きますが、アイソフォーム B-α とアイソフォーム B-β は最も弱い活性化因子です。アイソフォーム B-α、アイソフォーム B-β、アイソフォーム C-α、アイソフォーム C-β はともに T 細胞に存在し、転写活性を調節することができます。ドメイン: アイソフォーム C には、転写活性化因子として機能する追加のトランス活性化ドメイン TAD-B を含む C 末端部分があります。アイソフォーム B には、転写抑制因子として機能する完全な TAD-B を含まない短い C 末端部分があります。ドメイン: Rel 類似性ドメイン (RSD) は、DNA に結合し、AP1 因子と協力的に相互作用することを可能にします。ドメイン: N 末端トランス活性化ドメイン (TAD-A) は Cbp/p300 に結合し、Cbp/p300 によって活性化されます。脱リン酸化形態には、マスクされていない核局在シグナル (NLS) が 2 つ含まれており、これによりタンパク質が核に移行します。機能: T 細胞におけるサイトカイン遺伝子の誘導発現、特に IL-2 または IL-4 遺伝子転写の誘導に役割を果たします。また、胎児心筋細胞の遺伝子発現も制御します。T リンパ球、リンパ系細胞、非リンパ系細胞の活性化と増殖だけでなく、分化とプログラム細胞死も制御できます。誘導: T 細胞受容体 (TCR) 複合体の活性化により、T リンパ球でアイソフォーム A のみが誘導発現します。ホルボール 12-ミリスレート 13-アセテート (PMA) とイオノマイシンの共添加後に誘導されます。また、12-O-テトラデカノイルホルボール-13-アセテート (TPA) とイオノマイシンの共添加後にも誘導されます。PMA、イオノマイシン、シクロスポリン A で弱く誘導される。PTM: NFATC キナーゼによりリン酸化され、カルシニューリンにより脱リン酸化される。類似性: 1 つの RHD (Rel 様) ドメインを含む。細胞内局在: リン酸化型は細胞質内に、カルシニューリンを介した脱リン酸化によって制御される活性化後は核内に局在する。NFATC が速やかに核から排出されることは、細胞が持続性カルシウムシグナルと一過性カルシウムシグナルを区別するメカニズムの一つと考えられている。NFATC の細胞内局在は、遺伝子転写の制御において重要な役割を果たしている。サブユニット: 多成分 NFATC 転写複合体のメンバーであり、少なくとも 2 つの成分、すなわち既存の細胞質成分 NFATC2 と誘導性核成分 NFATC1 から構成される。NFATC4、NFATC3、あるいは活性化タンパク質 1 ファミリーのメンバー、MAF、GATA4、Cbp/p300 などの他のメンバーもこの複合体に結合することができる。NFATC タンパク質は単量体として DNA に結合する。組織特異性: 胸腺、末梢白血球 (T 細胞)、脾臓に発現する。アイソフォーム A はエフェクター T 細胞 (胸腺および末梢白血球) に優先的に発現するのに対し、アイソフォーム B およびアイソフォーム C はナイーブ T 細胞 (脾臓) に優先的に発現する。アイソフォーム B は最初の抗原曝露後にナイーブ T 細胞に発現し、アイソフォーム A は 2 回目の抗原曝露後にエフェクター T 細胞に発現する。

研究分野

免疫学

画像データ



293T のウェスタンブロット分析。一次抗体は 1:1000 希釈で 4°C、一晩。二次抗体は 1:10000 希釈で 25°C、1.5 時間。